

# 災害発生に備えて、今取り組むべきこと

## 避難場所に避難する必要があるのか確認しましょう

避難とは、「難」を「避」けることです。自宅が浸水する可能性がない場所や土砂災害の危険性がない場所にあるなど、自宅が安全が確保できる場合には、自宅に留まることも非常に重要となります。

本町では、町のホームページでハザードマップを公開しています。また、地区によっては防災マップなどを作成しているところもありますので、それらをご確認いただき、自宅が安全かどうかを確認しておきましょう。もし、自宅に災害の危険性があるとわかった場合、災害発生の恐れがでてきたときには、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に関わらず、避難所などへ避難してください。



白鷹町ハザードマップはこちら⇒

## 安全な場所に住む親戚や友人宅への避難も検討しましょう

避難所だけが避難先とは限りません。安全な場所に住む親戚や友人宅への避難も非常に重要です。これは、避難所での密集・密接の回避にもつながるため、新型コロナウイルス感染症の感染対策としても有効となります。今のうちに、親戚や友人の方に相談しておきましょう。

## 「町内緊急メールサービス」に登録しましょう

災害の発生状況や新型コロナウイルス感染症対策のため、避難所を変更・増設する場合があります。その際は、防災行政無線（Jアラート）や町内緊急メールサービス、町ホームページなどで随時お知らせします。特に、いち早く確実な情報を入手するツールとして、町内緊急メールサービスが最も有効です。ぜひ、登録しておきましょう。登録方法については本誌7頁をご確認ください。

## 避難場所へ持っていくものを準備しておきましょう

町で準備できるものには限りがあります。また、これまでの非常時持出品に、新型コロナウイルス感染症の感染予防に必要な用品も加える必要があります。食料、飲料水などのほかにも、ご自身の健康状態を確認するための体温計など可能な限り、あらかじめ準備しておきましょう。

### 【準備しておくもの】

- ・マスク
- ・タオル
- ・石けん
- ・アルコール消毒液（ウェットティッシュ）
- ・体温計
- ・食料
- ・飲料水
- ・モバイルバッテリー
- ・ビニール手袋
- ・持病薬
- ・防寒具（定期的に換気を行うため、時期によって必要と思う場合に持参）



# ／どうしたらいい？／ コロナ禍での避難行動



7月28日、避難所となった荒砥地区コミュニティセンターの様子。  
新型コロナウイルス感染症対策のため、可能な限り空いている部屋を活用し、  
家族間で間隔をとりながら密集・密接対策を行った。

※プライバシー保護のため、一部写真を加工しております。

7月28日、集中豪雨が本町を襲い、町内各地で大規模な浸水被害や土砂崩落が発生しました。近年、「50年に一度の大雨」「100年に一度の大災害」そんな言葉を毎年のように耳にします。「未曾有の災害」が当たり前のように起こる時代なのでしょうか。わが町の歴史を振り返ってみても、昭和42年8月に発生した「羽越災害」、平成25年、26年と2年続けて発生した豪雨災害など、甚大な被害をもたらした災害が何度も発生しています。

そして。現在、新型コロナウイルス感染症という目に見えない恐怖が世界規模で猛威をふるっており、私たちの新たな課題となっています。

新型コロナウイルス感染症の対策として重要視されている「密集・密接・密閉の回避」ですが、もし、今回のように災害が発生し、避難所に避難する必要がでてきたとき、どのような避難行動をとればいいのか、不安に感じている方も多いと思います。7月28日の豪雨災害で避難所を開設した際には、実際に「避難者同士の距離の確保」「徹底した健康状態のチェック」「マスクや消毒液といった感染予防用品の確保」などの対応を行いました。

必ずやってくる災害に備えるとともに、新型コロナウイルス感染症の対策も意識した避難行動について考えてみましょう。

## ----- 本町で過去に発生した主な災害 -----

### 【平成26年豪雨災害】



平成26年に発生した集中豪雨により十王地内で土砂崩れが発生。円光寺が倒壊した。

### 【平成25年豪雨災害】



平成25年に発生した集中豪雨により西高玉地内の住宅地に土砂が押し寄せた。

### 【羽越水害】



昭和42年8月28日から29日にかけて発生した集中豪雨により最上川の堤防が決壊。写真は屋根に逃げ延びた人を救助する様子。  
(提供元：国土交通省山形河川国道事務所)